



緑の祭典 " かながわ未来の森づくり " 2022 in はだの 植樹会場

## CONTENTS

会長就任のご挨拶 / 会長退任のご挨拶	.....	P1
森のニュース	「緑の祭典」 かながわ未来の森づくり” 2022 in はだの」を開催しました	..... P2
わが市わが町	大和市	..... P4
森林づくり活動 グループの広場	柿生の里クラブ まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ（川崎市麻生区）	..... P5
森林環境譲与税 の取組み	森林の息吹きが学校に！ ～ 県産木材を使った学習機の導入が進んでいます ～	..... P7
事務局便り	.....	P9

## 会長就任のご挨拶

### 秦野市長 高橋 昌和

6月1日付けで神奈川県森林協会の会長に就任いたしました、秦野市長の高橋昌和です。

6期11年の長きにわたり、当協会の会長を務められた小林常良厚木市長の後を引き継ぐことは、誠に光栄であると同時に、大変身の引き締まる思いであります。

当協会の歴史は古く、その前身は、昭和12年に発足した「神奈川県治山治水協会」にさかのぼります。

以来、関係団体との統合などを経て、長年にわたって、県民共通の財産であります森林を守り、育む活動を推進してきたところです。

一方、森林に対する社会の要請は、

時代とともに多様化しており、近年、木材生産だけではなく、森林の保全が、二酸化炭素削減による地球温暖化対策や、持続可能な社会を実現するSDGsの主要な目標となるなど、森林の果たす役割がますます重要になってきています。

そうした中、令和元年度からは、森林環境譲与税による森林整備、木材利用、普及啓発などの市町村主体の取組みも始まっています。

市町村の役割が増すなかで、当協会が行う会員市町村への支援、サポート活動もより一層充実したものにしていきたいと思いますと考えております。



今後もこれまでの歩みを引き継ぎ、治山事業や林道事業、森林の整備や木材の有効活用などを促進する活動を通じて、森林の保全や林業の振興を図ってまいります。

併せて当協会の発展に努めて参りますので、会員の皆様、関係機関の皆様のご支援、ご協力をお願いいたしまして、就任の挨拶とさせていただきます。

## 会長退任のご挨拶

### 厚木市長 小林 常良

令和4年度の第13回通常総会を機に、会長を退任させていただきました。

森林協会として発足間もない平成23年度から、今年度までの11年間という長い期間にわたり、微力ながら会長の任に就かせていただきましたことを嬉しく思っています。

在任中は、協会の役員、会員の方々をはじめ、県などの森林関係の方々の温かいご指導とご支援、ご協力いただきました。心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

さて、神奈川の森林もこの10年ほどの間に、水源林の整備等が進み、保全にも目途が立ってきました。

これら事業の推進には、森林・林業に対する普及啓発、あるいは予算要望活動などを行ってきた当協会の地道な活動が、少なからず寄与してきたものと考えております。

こうした中で、当協会の役割も変化し、新たに森林環境譲与税を活用した取り組みへの支援という、市町村会員のための本来の活動を担える時代になりました。

今、CO2の削減が地球規模で求められています。

その要請に応えるべく、森林分野においても、譲与税の活用をはじめとした新たな取り組みが始まっています。



「私たちは自然に生かされている」この基本的な考えの下、私たちは森林を利用しなければいけません。森林の力があるからこそ、私たちの生命、存在が守られているということを忘れてはなりません。

今後も、神奈川の森林を恵み豊かなままで次世代に引き継げるよう、当協会の活動の充実、発展に向け、皆様のより一層のご支援をお願い申し上げます。



# 森のニュース

## 「緑の祭典」かながわ未来の森づくり

### 2022 in はだの」を開催しました



#### 1 はじめに

5月22日（かながわ森へ行こうの日）に、（公財）かながわトラストみどり財団、神奈川県、及び秦野市の共催で、「緑の祭典「かながわ未来の森づくり」2022 in はだの」が、秦野市表丹沢野外活動センターで行われました。

#### 2 緑の祭典について

緑の祭典とは、平成22年5月に開催された第61回全国植樹祭を契機として、県民参加の森林づくりを推進していくため2年に1度開催している植樹イベントです。

今回は、持続可能な森林づくりと全国屈指の森林観光都市を目指す秦野市において、森林とのふれあいを促進するイベントとして開催されました。第61回全国植樹祭では秦野市も式典の会場となっており、緑ある地での開催となりました。

緑の祭典当日は晴天に恵まれ、463名の参加者が、クヌギやコナラ、シラカシなどの苗木を植樹しました。植樹後の手入れについては、表丹沢菩提里山づくりの会と、かながわトラストみどり財団、秦野市の3

者が管理していく予定となっています。



植樹する参加者

参加者の植樹後は記念式典が執り行われました。式典では2022年ミス日本みどりの女神の成田愛純さんが司会をつとめ、丹沢アルプホルンクラブのプロローグ演奏から始まり、県の小板橋副知事と秦野市の高橋市長の挨拶のほか、長年森林ボランティア活動を行ってきた方への感謝状の贈呈が行われました。



丹沢アルプホルンクラブによる演奏

式典の最後には、副知事、秦野市長、地元県議、市議会議員・副議長、財団専務理事、東京神奈川森林管理署長、みどりの女神、秦野市森林組合長による記念植樹が行われ、秦野市みどりの少年団の介添えのもと、秦野市の木であるコブシと、イロハモミジ、ヤマボウシが植栽されました。

記念植樹後は、神奈川県水源環境保全・再生イメージキャラクターのかながわしずくちゃんと、秦野市くずはの家マスコットキャラクターのもりりんと一緒に記念撮影を行いました。

また、緑の募金活動も行われ、みどりの女神の成田愛純さんと緑の少年団の皆さんが、会場をまわり寄附を募りました。





記念植樹後の記念撮影



緑の募金

午後は森林内をめぐる森林探訪会が行われました。場所は、秦野市に5つある森林セラピーロードのうちの1つの「表丹沢野外活動センター・葛葉の泉コース」です。森林インストラクターが植物の解説などを行いながら、参加者と共に散策をしました。



森林探訪会の様子

コース内には、コナラやイロハモミジ、アブラチャンなどの様々な植物が生育しており、その葉の香りをかいだり、名前の由来について説明を受けたり、鳥のさえずりや葛葉川

のせせらぎの音を体感しました。

探訪会の折り返し地点には、湧水スポットの「葛葉の泉」があり、参加者は秦野の名水でのどを潤したりして楽しんでいました。

一日を通して出展ブースも賑わいました。神奈川県では水源環境保全・再生の取り組み等をパネルで紹介し、秦野市は無花粉ヒノキ「丹沢森のミライ」の展示を行いました。他にも焼きごてで作る特製ストラップ作成や、丸太切り、竹細工、ウッドカーレースなどの体験型のブースも多く出展されました。



出展エリアの様子

また、地元食材の販売も行われ、多くの人が集まりました。オーガニックマーケットと称して、キッチンカーの出店やバンドによるライブ演奏も行われました。

### 3 おわりに

今回の緑の祭典は新型コロナウイルスの影響もあり2年の延期を経てようやく開催にこぎつけました。

ご協力いただいた関係者の皆様、誠にありがとうございました。

緑の祭典は2年に一度開催しており、今回は、2024年の開催を予定しております。



くずはの妖精もりりん

秦野市くずはの家マスコットキャラクターです

#### 【開催状況】

2012年	南足柄市
2014年	川崎市
2016年	小田原市
2018年	箱根町
2022年	秦野市

(神奈川県環境農政局緑政部森林再生課)





# わが市わが町 大和市

## 大和市のみどり行政について



大和市は、神奈川県ほぼ中央にあり、都心から40km圏内に位置しています。市域は南北に長く、丘陵起伏が殆どありません。約27km<sup>2</sup>という狭い市域に、三つの鉄道が東西南北に走り、8つの駅があります。また、道路網も国道16号線、246号線及び467号線のほか県道4線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターチェンジにも近いなど、交通の利便性に恵まれています。

これらのことから、本市では樹林地伐採等による宅地化が進み、現在、市内の緑の割合は市域面積の3割程度となっています。

本市では、減少する緑を保全するため、市街化調整区域においては保全緑地制度、市街化区域においては保存樹林制度等を用いて森林面積の確保を図っています。



泉の森

本市には保全緑地制度によって守られている、8つの大規模緑地（保全緑地）があり、レジャーやバードウォッチング等に使われ、更には健

康都市を掲げる本市において、これらの森は、地域の人々の大切な憩いの場にもなっています。代表的なものとしては、市の北部に中央林間自然の森、中央部に泉の森、南部には上和田野鳥の森などがあります。保全緑地制度により設定された区域内において、その山林区域を永続的に保全していくため、個人等と賃貸借契約を締結し、所有者の要望に応じて、みどり基金を用いた用地取得も進めております。

近年では、令和元年度に195m<sup>2</sup>、令和2年度には2,308m<sup>2</sup>の山林用地の取得を2箇所の保全緑地で行いました。今後も所有者の動向を踏まえながら公有地化を図ってまいります。

現在、本市の主要な緑地である泉の森を始めとした8つの保全緑地では様々な問題に直面しています。

所有者の土地利用計画や、ゲリラ豪雨や大型台風等の自然災害対策などがあります。中でも、近年全国的にも問題となっている、ナラ枯れと樹木の径化・老齢化です。

前者については、カシノナガキクイムシがナラ類などに穿孔し、樹幹内でナラ菌を媒介させ、辺材部の通水機能を失わせることにより、最悪の場合、樹木を枯死に至らしめるものですが、本市では平成30年度から、調査を開始し、危険性や緊急性の高いものを選定し、伐倒・燻蒸等をして対応しております。

令和元年度から3年度までの伐倒・燻蒸の実績については65本です。

後者の樹木の径化・老齢化の対策については、全ての緑地で問題となっており、少し風の強い日などに、良好な状態であると判断していた樹木が幹折れを起こすことや、大枝を落とす事案が発生しており、とても危険な状況です。



泉の森の間伐の様子

これらの問題を解決するため、本市では間伐を積極的に図り、森の若返りや再生に努めております。令和元年度から3年度までの伐採本数については220本です。

これらの対策費につきましては、森林環境譲与税の使途として充てております。今後も既存の施策や制度を活用し、本市の緑の基本計画に基づき、緑地の保全に努め、地球温暖化対策及び二酸化炭素の削減に寄与できるよう、今後も努めてまいります。

大和市環境施設農政部みどり公園課  
横田 真啓



## 森林づくり活動グループの広場

# 柿生の里クラブ まちはミュージアム - 遊歩道ファンクラブ

柿生の里の夏

### 《柿生の緑の小舟》

小田急線柿生駅から徒歩10分ほどの所から多摩丘陵の一部が保全されています。下図をご覧ください。まるで街中にぽっかりと浮かぶ緑の小舟のようです。

市街化区域なので緑の保全には並々ならぬ行政の努力と市民の願い、地権者の方々の協力がありました。



1980年代から現在まで、できるところから川崎市の緑地・公園と行って行きました。そのひとつが柿生の里クラブの活動場所の「柿生の里特別緑地保全地区」1万9千㎡余です。また丘陵への入口の所にあるのが「おっ越し山ふれあいの森」でまちはミュージアム - 遊歩道ファンクラブが「柿生の里散歩道」とともに長年に亘って保全に努めてきました。

### 《まちはミュージアム - 遊歩道ファンクラブの活動 おっ越し山で》

1998年にさまざまな思いが募り活動を始めました。\*麻生区初の遊歩道「柿生の里の散歩道」の自然と歴史を次世代に繋ぎたい \*都市開発が進み地形の改変が顕著になり、多摩丘陵としての暮らしの原風景が消えて行く中で、「おっ越し山ふれあいの森」がご寄付で残されたことに感謝したい \*地域に残されたおっ越し山であったが、アズマネザサとヒサカキに覆われ暗い森になっていて、子どもたちにも親しまれていない状況を何とかしたい 等々。

### 森づくり

ヒサカキの間伐、アズマネザサの草刈りを継続していますが、ナラ枯れによる大径木のコナラの伐採が進められています。新たな雑木林にするべく植林していく予定です。

### 場づくり

山の上の風に吹かれながらホッと休憩する場所となるようベンチを作りました。

### 花壇づくり

入口部分の瓦礫を撤去し落葉の堆肥を入れながら花壇にしたところ道

行く人々から大変喜ばれています。カラムシやジュズダマも保全し、環境学習に役立っています。

### 自然の復活の楽しみ

草刈りを継続していると自生のヤマユリが多く咲くようになりました。キンラン、ギンラン、キバナアキギリ、シュンラン、オカトラノオなども保全しています。



林床に咲くギンラン

活動資金を得たことで2001年都市緑化基金に応募し「第1回花王みんなの森づくり活動助成団体」に選定され、活動をしていく上での基本的な道具や倉庫の購入が出来ました。また伐採木で看板を作成し地域への広報が可能になりました（現在は活動20年目に2代目を作成）。また里山フォーラム in 麻生を立上げてみようという原動力にもなりました。

### 《柿生の里クラブ誕生》

おっ越し山が1995年に緑の保全



落葉かき (あさお里山子どもクラブ)



地域になってから 14 年後の 2009 年に柿生の里特別緑地保全地区が都市計画決定されました。それを受け 2010 年 3 月保全管理活動団体として柿生の里クラブが出来ました。まちはミュージアム - 遊歩道ファンクラブのメンバーは全員柿生の里クラブのメンバーにもなりました。

新しいボランティアを加え、地域の自然・歴史・文化を活かした昔ながらの里山の再生を目指し「未来へ手渡す豊かな多摩丘陵」となるよう現会員 30 名が活動に励んでいます。

**ゾーン毎の作業**

作業は会員による下図のような植生に基づいた 13 のゾーンごとに、自然の変化を見ながら、進めています。



**昔の佇まいを大切に**

その昔ここが大きな農家（屋号大谷オオヤト）の屋敷だった頃の佇まいを今に伝えている風景、例えば禅寺丸柿の古木があり、昔田んぼだったような湿地にはニリンソウやキツリフネソウの群落があるなどを大切にしながら、この緑地が歩いて来た土地の記憶を紐解き、公共緑地としてどのような作業が適切なのか、次世代にどう繋いでいくかを見極めて



ヤマユリの斜面の草刈り  
ヤマユリの丘になる ⇒



行きたいと思います。

**植生も地形も多様な中での作業**

柿生の街中の自然ですが、野鳥、昆虫、植物など生き物の賑わいがあります。動植物の記録は欠かせません。アズマネザサ、クマザサなどの下草刈り、モウソウチクの除伐、間伐、樹木の間伐、外来雑草の除去、落葉掃き、湿性地の保全、植物の名札付け、庭園木の保全、池（人工）の保全などを行っています。

**体験学習・環境学習の場として**

これらの自然を活かした体験学習・環境学習をしようと里山フォーラム in 麻生と協働で「あさお里山こどもクラブ」「里地里山ナチュラリスト養成講座」を実施しています。また資源循環の一貫として腐葉土や灰を入れ込んで土づくりをしつつ、「大麦・小麦」、「万福寺人参」、「サツマイモ」などを栽培し、あさお里山こ

どもクラブへ提供しています。

**地域の子どもたちとの関わり**

柿生こども文化センターとの関りが一昨年からは始まりました。また嬉しいことに今年から柿生小学校 5 年生 120 名の総合学習に資することになりました。

作業を始めてから 13 年目。多摩丘陵の山野草の復活には目を見張るものがあり、春夏秋冬の雑木林の森の美しさも作業の励みになって来ました。ナラ枯れが進むと今後これらを維持できるかどうか大変心配です。

市民のボランティアではやり切れない所も多々あります。求む、みんなの力！行政との協働も熱望しています。

（柿生の里クラブ・まちはミュージアム - 遊歩道ファンクラブ 会長 石井よし子）



柿生の里の  
の春夏秋冬





# 森林の息吹きを学校に！

～ 県産木材を使った学習機の導入が進んでいます ～

## 森林環境譲与税の取組み

小学校で使われている学習機は、子どもたちにとって学校生活に欠かせないマイデスクとして、愛着を感じるものです。

その机も木製からスチール製に代わってから久しくなりましたが、最近、古くなった机を交換する際に、机の天板に神奈川県産の木を使った机を選んでいただけるケースが増えています。

現在、相模原市、平塚市、伊勢原市で、森林環境譲与税を財源とした県産木材を使った学習機の導入が進められています。

それぞれの市の実情にあわせ、天板に使う木の種類や、木の加工方法、調達方法も違いますが、そのなかで、今回は平塚市、伊勢原市が導入している「神奈川県産材学習機」を紹介いたします。



神奈川県産材学習機

「神奈川県産材学習機」は、「神奈川県森林組合連合会」が製品化、販売している、天板に県産のスギを使用したスチール机です。

天板の両面にペット樹脂加工を施してあり、表面は固くなめらかで、

木目や色合いなど、木の良さを生かしながら、耐久性も両立させた使いやすい机です。天板に使う材は、県内の市町村単位での産地指定が可能です。



平塚市立相模小学校 校舎外観

実際に教育の現場での評価はいかがなのでしょう。令和4年4月に机を導入した平塚市立相模小学校の牧野校長先生にお話を伺いました。平塚市立相模小学校は移転整備により令和4年4月1日に新しい校舎に生まれ変わりました。

バリアフリー対応、屋上への太陽光パネルやバルコニーの設置による外部熱負荷の低減、教室の天井の木質化などを行い、「神奈川県環境共生都市づくり事業」による認証を受け、環境へ配慮した学校となっています。

『小学校の建て替えにあたって、机なども新しく用意することができて、しかも県産の木が使われていることで、とても喜んでいます。

机（天板）の大きさも大きくて、引き出しには教科書やお道具箱、タブレットも収納でき、とても使い勝

手がよいです。

机の天板を見るまでは、木の節などは残っていると聞いていたので少し心配でしたが、使用上まったく問題が無く、節を含め、木目や色合いが机ひとつひとつで違っていることに愛着が湧くようで、子どもたちには好評です。

この学校は建物の内装に木をたくさん使っており、木の机とあいまって、やわらかい木のぬくもりが校舎全体に満ちているようです。

こうした、あたたかみの感じられる環境は、無意識のうちに子どもたちの情操教育にも役立っていると感じています。』

机の販売を担当されている神奈川県森林組合連合会の力石生産販売課長にお話を伺いました。



教室に並んだ県産木製天板の机

『「神奈川県産材学習機」は、県内で間伐により生産されたスギ材を使用しているため、使用することで地産地消を推進しており、地球温暖化の防止や森林の多目的機能の発揮、さらには花粉症対策に貢献しています。』



また、地元の木材を利用して作った「天板」を通じて、子どもたちが木材の良さや利用する意義を学んで頂けたら幸いです。



切り出された丸太が加工工場へ運ばれる

この製品は、木目の美しさを活かしているため木の温もりを感じることができ、ペット樹脂加工を施すことで表面が強化され、軽いのに傷がつきにくく丈夫という利点があります。

単価は従来の製品と比べ若干高いのですが、品質と耐久性があるので費用対効果は見込めます。

是非とも多くの地域で、地元材を利用した天板の導入を御検討いただきますようお願い申し上げます。』

川上と川下の学校間の交流は、以前あったとお聞きしました。

川上の山で生産した木材を川下の都市で使う、地域の資源の循環はこれからの持続可能な社会の実現に役に立つこと、「木使い」をきっかけに、机を使う子どもたちに川上、森林を知ってもらうことができれば、この机の価値ももっと高まるに違いありません。

(神奈川県森林協会事務局)

## 相模小学校の内装木質化の紹介



本に囲まれた木製の読書スペース



天井にも木を使った木質感あふれる教室



木づかいが校舎に温かみを演出する

### 森林環境譲与税とは・・・

温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要となる地方財源を安定的に確保するために、森林環境税及び森林環境譲与税が令和元年度に創設され、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等、税を活用した市町村が行う取組みが進められています。





# 事務局便り INFOMATION

## 令和4年度第1回理事会及び第13回通常総会を開催しました

- 1 日 時 令和4年5月31日(火)
- 2 場 所 厚木商工会議所

○第1回理事会 13時30分～

- 3 議 事 第13回通常総会へ提出する議案  
令和3年度森林林業功労者について  
令和4年度常勤役員の給料の額について  
令和3年度かながわ市町村林政サポートセンター活動実績  
令和3年度森林づくり普及支援事業実績

○第13回通常総会 14時45分～

- 3 議 事 ①令和3年度事業報告及び収支決算報告  
②令和4年度事業計画及び収支予算(案)  
③令和4年度会費の賦課及び納入方法(案)  
④役員の改選(案)

議案は原案通り承認決定されました。

## 令和3年度森林林業功労者表彰

地域の林業の発展や、森林環境の保全に顕著な功績のあった個人、団体を表彰しています。

令和3年度は次の5名の方が表彰されました。おめでとうございます。

- ・狩野 弘行 (相模原市)
- ・東 宏樹 (厚木市森林組合)
- ・坂 達也 (厚木市森林組合)
- ・渡邊 一雄 (厚木市森林組合)
- ・佐橋 裕太 (秦野市森林組合) 敬称略

広報誌 緑の斜面 VOL. 77 / 令和4年7月31日発行

編集・発行 神奈川県森林協会

住所 厚木市中町2丁目13番14号 サンシャインビル604

電話・FAX (046) 240-0500

## 市町村林政アドバイザー

令和4年4月1日付けで市町村林政アドバイザーが交代しました。

新しいアドバイザーは次の2名です。

日高 壮一

藤澤 示弘

どうぞよろしくをお願いします。

市町村林政アドバイザーとは・・・

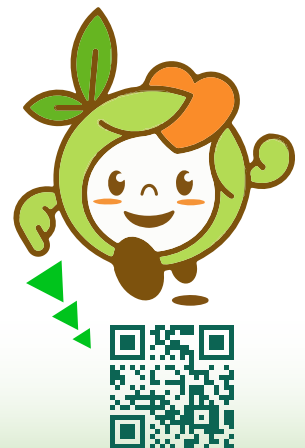
森林環境譲与税に関する事業(間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等)を市町村が取り組むにあたり市町村からの相談、支援の要請等に対応する森林林業の技術者です。当協会では神奈川県から市町村林政支援業務を受託し、2名を配置しています。

## 協会のホームページについて

協会のホームページ(Webサイト)はスマホ対応です。このページ右下のQRコードを読み取ることでホームページ(Webサイト)に簡単にアクセスできます。

第13回通常総会で承認された、令和4年度事業計画、新役員など協会に関する情報を閲覧することができます。また、神奈川県の森林について、森林再生、ナラ枯れ、木材利用に関する行政の取り組み等を紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

この広報誌「緑の斜面」のバックナンバーもPDFで65号から閲覧することができます。



HOME PAGE  
<https://k-crk.com/>